

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 はなみずき)

事業所番号	0672300431		
法人名	山形小木医科器械株式会社		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	山形県西村山郡朝日町大字宮宿320番地の6		
自己評価作成日	平成 30 年 11 月 7 日	開設年月日	平成18 年 3 月15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

そのひとらしさや思いを大切に、得意なことやできることを発揮して、できるかぎり自立した生活を送っていたような支援を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は開設13年目を迎えているが、建物・設備は定期的に補修・設備更新が実施され、手入・清掃が行き届き、綺麗で清潔に管理されている。職員は普段から「気づき」を大切に、「できること・好きなこと」をケアプランに盛り込み、糖尿病利用者の運動不足解消のための散歩、果物の皮むき、地元温泉での入浴など個別ケアに取り組み、理念に掲げた「その人らしさを大切に」という理念の実現に努めている。目標達成計画にも真摯に取り組み、職員が話し合い、わかりやすく具体的なユニット目標を掲げ、毎年振り返りを行いながら課題解決に努めている。地元消防団との連携、広報誌の回覧、町内会総会や地域行事への参加、事業所行事への招待、小学校の運動会や子供供養でのふれあいなどを通して地域との交流を深めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 30 年 12 月 4 日	評価結果決定日	平成30年 12月 20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、職場内研修で皆で共有し唱和を図っており、又広報やイベント等で地域の方々との交流を図っている。	理念を玄関やリビングなどに掲示し、内部研修会で唱和・共有している。職員で話し合い、わかりやすく具体的なユニット目標を掲げ、毎年振り返りを行っている。職員は利用者と積極的にかかわることで生まれる「気づき」をケアプランに盛り込み、「その人らしを大切に」という理念の実現に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	職員体制により、地域の行事への参加が難しいところもあるが、施設内のイベントに招待したり、地域のお祭りで施設に訪問していただいて交流を図っている。	町内会に加入し、町内会総会に出席、広報誌回覧、町の文化祭見学、小学校の運動会や子供神輿でのふれあい、事業所の芋煮会・かき氷の振る舞いなどへ招待、中学生職場体験、ボランティアの来訪などを通して交流を深め、地域に根差した事業所運営に取り組んでいる。前回目標達成計画に掲げた「地域との相互交流」については一部取り組みが行われており、管理者は継続して取り組んでいく意向である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を交えて運営推進会議を開催し、実情と支援の方法を伝えている。 中学生職場体験を受け入れ、利用者様と関わりをもってもらいながら、理解を得られるよう伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で、地域の方々へ現状を報告し意見をいただき、より良いサービスにつながる様取り組んでいる。	町職員、区長、民生委員、家族代表が参加して2か月に1回開催されている。事業所からは活動状況・待機者数、事故事例などが報告され、委員からは認知症カフェの開催要請、介護報酬改定の情報提供、災害対策に関する質問などがあり、活発な意見交換が行われ、サービス向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に役場職員から出席していただき、実情を伝え、アドバイスをいただいている。連絡を密に取るよう努めている。</p>	<p>運営推進会議に町職員が出席している。町主催の「災害時福祉避難所の会議」、「高齢者虐待防止協議会の会議」などに参加し、情報交換しながら良好な関係を築いている。個別の問題は、その都度報告・相談を行い、解決に向け努力している。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>夜間は職員一人の対応の為に玄関に鍵をかけているが、日中は利用者様の思いに添うよう対応の工夫をしたり、話を良く伺うなどしてできるだけ鍵をかけない取り組みをしている。身体拘束をしないで過ごせるよう工夫しているが、転倒のリスクが高い方にはご家族と相談し同意を得て離床センサーを使用している。</p>	<p>内部研修で身体拘束廃止を周知している。運営規程及び重要事項説明書に身体拘束廃止を規定し、ユニット会議で身体拘束有無の報告、事例検討などを行っている。職員は禁止対象となる具体的な行為や弊害について正しく理解している。帰宅願望が強い利用者に対しては、傾聴・見守り・寄り添うことで、安全を確保しながら、鍵をかけない工夫や身体拘束をしない取り組みをしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての研修を行っており、日頃身体拘束や言葉の虐待につながらないように、注意を払ってケアに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護や成年後見制度について、今年度は学んでいない。今後学ぶ機会を設ける。成年後見制度を利用している方は、弁護士が年に数回面会に来ている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ホームに入所の際は、契約の時に具体的に説明し、ご家族や利用者様の要望を伺い、サービスに努めている。解約、改定の際も同じく説明を行い理解を得ている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族懇談会を開き、家族が意見や要望を表せる機会を設けている。	面会時など普段から利用者や家族が気軽に話ができる雰囲気づくりに努めている。年度当初に開催される家族懇談会では、職員が抹茶を振る舞って和やかな雰囲気を作り、家族から意見や要望を聞き取りしている。また、利用者の1ヶ月の様子をおたよりで家族に報告している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回社長と管理者と三者面談を行い、職員の意見や提案を話す機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を設け、職員個々が発揮した能力に対して公平性、納得性の高い処遇を行なうための評価制度が創設された。何が期待され、どう報いられるのかが明示されたことにより、向上心をもって働けるよう整備されたが、職員不足により納得のできる就業環境になっているかは疑問である。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が一人ひとりのケアの実際に合うような研修に参加できるよう機会を確保している。	内部研修は年間研修計画に基づき実施されている。外部研修は管理者が職員の希望を聞き、力量や経験を勘案しながら派遣している。受講した職員は伝達研修を行い、全職員のスキルアップにつなげている。先輩職員が新人職員の指導にあたり、働きながらトレーニングする機会も設けられている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換実習を行っていた事もあったが、現時点で職員不足ということもあり、実現出来ていない。できる限り外部の研修には参加してサービスの質の向上に努めている。	山形県グループホーム連絡協議会の研修会及び交換実習に参加し、情報交換するとともに、ネットワークづくりに努めている。学んだことをサービスの質の向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の情報をできるだけ把握、共有し、安心して生活していただけるよう、環境作り、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とご家族から、生活のリズム、性格、好きな事等、話を伺い、出来る限り利用者様やご家族の要望に対応していくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族から伺ったことを基にユニット内で共有し、必要とする支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力を発揮していただけるよう見極め、家事など出来る事は協力していただき、感謝の気持ちを伝え共に暮らす関係を築けるよう心掛けている。又、ご本人の感情や状態を見て、合わせた介護が行なえるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て下さった際に近況報告を行い、情報を共有している。生活に対する意向を伺ったり、相談をして共にご本人を支えていく関係を築くよう努めている。又、ご家族と一緒にゆっくり話が出来る場を設けている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会に来て下さった際、ゆっくり話が出来る場を設けている。又、以前から利用していた美容院など、継続して利用できるよう支援している。。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し皆さんがコミュニケーションをとれるよう、席を考えたり、一人ひとりが楽しめるようなレクリエーションを行い、交流を図れるよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の外や町で出会った際にはお声掛けし、挨拶している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング等で利用者様から個別に話を聞いて、その方の思いや暮らし方の希望、意向を把握できるように努めている。困難な方はご家族と相談をした上で職員間で話し合い、より良く過ごして頂けるよう努めている。	センター方式アセスメントシートを使用し、特に「暮らし方シート」から、生活歴やできることを把握している。また日々の生活や会話からの「気づき」を大切に、利用者の「できること・好きなこと」を見つけ、思いや希望を把握するよう努めている。困難な場合は、家族からも聞き取りを行い、本人本位に検討している。前回目標達成計画に掲げた「利用者の自己決定支援」は取り組みが行われている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご家族の方やご本人から情報収集を行い、出来るだけご自宅と同様安心して暮らしていけるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を見極め、出来る事を発揮していただけるよう支援に努めている。日々のバイタル測定、排泄状況、表情を観察し、体調の把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的にモニタリングし、ご家族からの意見も伺った上でカンファレンスし介護計画を作成している。</p>	<p>毎月モニタリングを行い、評価を繰り返しながら、計画の見直しを行っている。見直しにあたっては、利用者の思いや家族の意見を取り入れ、職員の「気づき」を大切に、ユニット会議で意見交換を行い、「できること・好きなこと」を盛り込み、本人の言葉を引用して表現し、くらしが見える介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や気づき、工夫を個別に記録し、職員間で情報を共有している。申し送りノートを活用し、口頭での申し送りの他、又メモ用紙を貼り紙し、伝達が届くように工夫している。</p>	/	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>町内のイベントや観光地に外出したり、近い所には歩いて参加している。地元のスーパーに買い物に行き、一緒に食材を選んでいただいている。</p>	/	
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご家族やご本人の希望でかかりつけ医がある場合、その医療機関にて受診している。受診時、細かく伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>利用者が希望するかかりつけ医を継続している。通院支援は家族が行うことになっているが、職員が付き添うケースが多くなってきている。受診結果は記録に残し、職員間で共有している。家族には電話やおたよりで報告している。また町立病院の医師による訪問診療も行われ、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員に利用者一人ひとりの状態を伝え相談し、処置をしてもらっている。相談ノートを作って伝え忘れないようにしている。又、必要時、電話で相談し指示を仰いでいる。</p>	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際は日頃の状況や配慮している点も病院関係者に伝え、安心して治療ができるように努めている。面会に行き、医師や看護師に日々の状態を確認し、退院の際は、情報交換や相談に努めている。</p>	/	
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の契約をする際、ご家族に話を伺い、事業所ができることを伝えている。事前指定書にて意向を伺っているが、当初のままになっている。状況も変化してくることから、定期的にご本人、ご家族と話し合いを行なう必要がある。</p>	<p>入居時に「看取り及び重度化への対応指針」を家族に説明し、終末期医療に関する「事前指定書」を提出してもらっている。重度化した場合は、医療機関・家族・職員で話し合い、方針を共有しながら対応している。看取りの経験もある。</p>	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急マニュアルがあり、また、職場内研修や心肺蘇生訓練を行ない、利用者様の急変や事故発生に備えている。</p>	/	
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、日中と夜間想定避難訓練を行っており、事前に回覧板で地域の方に案内し、参加していただいている。今年度は地区の代表者のお声掛けにより、日曜日に訓練を実施し、多くの地域の方から参加いただき、避難状況や施設内を確認していただいた。</p>	<p>年2回、消防署及び地域住民の協力を得て、昼・夜を想定した避難訓練を実施している。福祉避難所協定の締結、地元消防団による事業所の見学や居室入口に避難手段（徒歩、車椅子）の掲示なども行われている。ハザードマップは事務所に掲示し確認している。広域災害に備え、備蓄も行われている。前回目標達成計画に掲げた「水害時の避難マニュアルの作成」は町と相談しながら進めていく意向である。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の事やプライバシーな事等、場所を変え、小声で言葉をかけている。共感し、傾聴する姿勢を心掛けているが、忙しさや他の方の対応をしているとできていない時もある。	人格の尊重やプライバシー確保をユニット目標に掲げ、接遇研修を通して職員に周知している。利用者を人生の先輩として敬い、職員同士で確認・注意し合いながら、不適切な対応がないよう努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	衣類選びや食事等希望を伺い出来るだけ自己決定が出来るよう働きかけている。行事がある場合お誘いし、不参加のときは、無理に勧めず、ご自分の希望を優先に過ごしていただく。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく一人ひとりのペースを大切に、利用者さんの想いにそった生活が出来るよう支援しているが、職員体制により希望した日に入浴等出来ない時がある。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた衣類の交換や身だしなみやオシャレに気を配り、ご自分でも衣服を選んでいただいたり鏡を見て納得のいくよう整えてもらっている。介助が必要な方にとっても職員で身だしなみに気を配っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、食事のメニューに取り入れたり、工夫している。調理の下ごしらえ等、準備や食事、後片付けを一緒に行なっている。	献立は利用者の希望を聞きながら職員が作成している。利用者と職員が近所のスーパーで購入した地元の食材や自家菜園の新鮮な野菜などを使用し、3食とも事業所キッチンで調理している。利用者にはできることに参加し、家庭的な雰囲気職員と食事を楽しんでいる。行事食、おやつ作り、大型店舗での外食など食事のアクセントにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べている量や水分量が、1日どの位摂取出来ているか記録をしている。栄養バランスを心掛けメニューを立てているが、栄養士がいない為、量やバランスについては確保出来ているか不明である。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。ご自分で出来る方には声かけし、出来ない方には介助し、状況に応じて口腔ウェットティッシュを使用している。就寝前は入れ歯洗浄剤を使用し消毒を行なっている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりのトイレの間隔や排泄のパターンを把握し、自らトイレに行く事が難しい方は間隔をみて誘導を行ない、なるべくトイレで自然に排泄が出来るよう支援している。	排泄パターンシートを活用し、適時声かけ・誘導を行いながら排泄を支援している。利用者の羞恥心にも配慮しながら出来るだけトイレでの排泄を促すことで排泄の自立に向けた支援を行っている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂っていただいたり、食物繊維や乳製品を取り入れ工夫をしている。又、腹部マッサージや運動を行なうよう努めている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴していただけるように、声かけを行っている。入浴を好まない方もいらっしゃり、長く日にちが空いた場合は、対応に工夫し入っていただけるよう促している。職員体制により職員の都合となる場合もある。	利用者の希望に合わせて週2回以上の入浴を支援している。入浴嫌いの利用者には声かけやタイミングを工夫しながら対応している。利用者の身体状況に合わせて一般浴・機械浴を選択でき、安全に入浴できるよう支援している。また、地元の温泉で職員と一緒に入浴を楽しむ利用者もいる。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時、ご自由にゆっくり居室で休んでいただいている。前日の夜間の状況やその日の体調によって、午前中休んでいただく事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で内容は把握しており、症状の変化があった時は、受診時医師に伝えている。一人ひとり確実に薬を服用出来るよう、服用前に個数、日付の確認を徹底している。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員体制により、外出等の個別支援が難しいところもあるが、皆で楽しめるレクリエーションを行い支援している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員体制により難しいところもあるが、行ってみたい所を伺いグループに分けてなるべく外出したり、お盆、正月等は早めにご家族の都合を伺い、ご家族と出かけられるよう支援している。	散歩、駐車場での外気浴、地元スーパーでの買い出し、自家菜園での野菜作り、季節のドライブなど戸外に出る機会を確保している。家族の協力による一時帰宅、地元温泉での入浴、糖尿病利用者の運動不足解消のための散歩なども支援している。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理することが難しく保管した場所が分からなくなる方もいらっしゃる為、お金の管理は職員が行なっている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙が届いた場合、手紙の代わりに電話でのやりとりを行っている。その他、ご家族と話したいと申し出があれば、電話し取り次ぎ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎食後リビングの掃除を行ない、他に共有の空間が汚れている場合、すぐに清掃するよう気をつけている。 室温や音等にも配慮し、リビングに季節の花や、壁には季節に応じた貼り絵などを飾り、季節感を取り入れている。	明るく広い共用空間は掃除が行き届き、適切な温度・湿度管理がなされ、適宜換気が行われ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。季節の花・リンゴの木の貼り絵・書道作品などが飾り付けられ、快適な空間となっている。和室には足の高い椅子用コタツ、リビングにはソファが設置され、利用者が思い思いの場所でゆっくりと過ごせるよう工夫されている。掃除は利用者と職員が一緒に行っている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いて、利用者様同士が交流できたり、くつろげる空間がある。一人ひとりの個人部屋があり、一人になれる空間もある。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や家族の写真を飾ったり、自分の物が無くなってしまうのでは、と心配がある方には衣類等見える所や側に置き、安心出来る環境を作っている。	和室と洋室があり、利用者の好みで選ぶこともできる。使い慣れた家具、家族の写真、賞状、テレビなどを持ち込み、自宅と同じような雰囲気ですぐ居心地よく過ごせるよう工夫している。掃除は利用者と職員が一緒に行っている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行、排泄等、介助なしで出来るよう見守りを重視し、必要時はお手伝いするよう心掛けている。洗濯物たたみや調理の協力等得意なことを見極め活かしていただいている。			